

## ◇令和2年度市土木工事要望現地調査が実施される◇

～ 地区の安全・安心とより良い生活環境を求めて役員奮闘 ～

9月24日(木)から29日(火)の4日間にわたり、各区からの要望があった土木工事個所を市南部土木事務所、道路課、河川課、森林農地整備課、若穂支所長等々大勢の関係部署の担当職員と加藤市議会議員も駆けつけ現地調査を実施しました。

各地区区長さんは日頃から住民より寄せられている地区の要望を受け止め、工事の実現に向け熱心に必要性を訴えられていました。

多くの地区から道路補修・拡幅、歩道の改良、水路や側溝の改修等身近で切実な要望が出され、みんなが安全で安心できる住みよい生活環境が整備されるようあらゆる機会を通して訴えていくことも重要と考えます。



## ◇若穂地区有害鳥獣対策会議開催◇

今年は例年になく熊の活動が活発で、長野市でも人的被害が発生しており、若穂地区でも捕獲頭数が飛躍的に増えていることから、10月7日(水)若穂支所において「若穂地区有害鳥獣対策会議」が開催されました。

当日は、加藤市議、長野市いのしか対策課及び長野県長野地域振興局、若穂支所、有害鳥獣対策委員、関連区の区長が参集し、現状と対策について検討を行いました。

まず現状認識については、若穂地区における熊、猪、猿、鹿等大型獣の出没(目撃)情報が、他地区に比べて極端に少ないのは、いずれも日常的に出没しているため「慣れっこ」になっていることと、通報してもしかたがないという気持ちがあるためにだれも通報しないという声、山際の区長からありました。

また、長野市の獣害対策が縦割り行政になっているのではという意見があり、部局横断的(いのしか対策課、地域活動支援課、道路課、森林農地整備課等)で総合的な対策を行ってほしいとの要望が出される等、活発な意見交換が行われ、有意義な会議となりました。

これから熊は冬眠前の食欲が旺盛になる時期になることから、電気柵の設置推進や緩衝帯整備、農作物を畑に放置しない等の、住民が自らできる対策を強化して、野生動物との共生や棲み分けについて考えていこうということで、意識を合わせました。

### クマの被害を最小限にする鉄則3

#### 鉄則1 「クマを誘うような物は片付ける」

取残しの果樹の実や生ゴミ等は放置せず、指定の場所に持ち込んだり、深く埋めるなど処理しましょう。山に入った時もお弁当やお菓子等のゴミを捨てると、人間の食べ物の味を覚えてしまうので、かならず持ち帰ること！



#### 鉄則2 「音をたてながら、複数で行動」

とても臆病ですが、ばったり出会ったりした場合には、事故が発生することがあります。山に入るときや山際を早朝や夜間出歩くときは、ラジオや鈴を鳴らしながら、複数で行動するなど、「人間の存在をアピール」しましょう。



#### 鉄則3 「農地に入らせない近づけない対策を」

今は性能のよい、効果のある電気柵が多数あります。地域で電気柵を購入し収穫まぎわだけでも、設置するなど、皆でクマの被害を防ぎましょう。

#### 電気柵

- ① 手前に標識を張ると、地面を掘ってくるのが出来ません。
- ② クマが鼻先で探った瞬間、敏感な鼻に電気がビリッと伝わるのでとても効果的です。
- ③ 設置が容易です。



人間に依存させないことが大切です。



# 「保科歴史かるた」完成間近！

## ～歴史かるた作成委員会～

令和2年度のまちづくり事業として取り組んできた、「保科歴史かるた」のドラフト版が完成し、近々印刷を依頼して11月半ば過ぎに完成の予定です。このかるたは、保科の名所や史跡・民俗を織り込んで作成したもので、昔のことを知っているお年寄りから、保科のことをもっと知って欲しい子供たちまで、世代を超えて楽しむことができるように作られています。（絵札の裏面には解説文が印刷されています）

作成に携わった委員の皆さんの、地域のことを知ってもらいたい、愛着を感じてもらいたいとの熱い思いが伝わってきます。お正月には間に合うはずですので、子や孫と一緒にかるたで楽しみながら保科の良さを読み聞かせてく



ださい。

なお絵札の作画は委員のハンドメイドであり、より温かみのある仕上がりとなっています。今回300部作成し、1セット1,000円で頒布する予定です。頒布方法については決まり次第お知らせします。

## 旧屋代線信濃川田駅にイベント・ステージ完成

川田まちづくり委員会では、長野市交通政策課との協議をすすめるなかで、駅周辺の整備を中心に、各種事業が進められております。この程、若穂住民自治協議会の予算を充当し、2年前より川田夏祭りの会場として利用されている駅東側スペースを舗装し、多目的利用のイベント・ステージが完成しました。田園地帯の中に、桜の古木を背景とし、先の大戦で空襲を受け弾痕が残る古い駅舎、地区のたくさんの思い出が詰まった長野電鉄跡地の遺産を大切に、地域の宝とし形あるものとして残し、次世代に引き継ぎたいものです。ステージの活用は、川田夏祭りのみに限定せず、若穂地区全体の各種イベントに使っていただければ幸いです。（川田まちづくり実行委員長 榎本茂治）



## 綿内駅・開業100周年記念事業ミニ展示会開催

綿内まちづくり実行委員会は9月25日～30日に駅舎解体を直前にして思い出の駅舎で往時を懐かしみ生まれ変わる駅周辺を展望した記念事業を実施しました。期間中は新聞・テレビ報道もあり地元の方、遠方から当時綿内駅を利用した方、鉄道ファンなど大勢の皆様が連日訪れました。展示された写真は開業当時走ったSLや駅舎など河東線の歴史を感じさせるものばかりでした。会場には百瀬高雄さん（浦町）が描いた駅舎と電車の絵に折り紙を飾り付けた特大ポスター、来場者に配布した記念絵ハガキも大好評でした。あわせて紙芝居の上演、DVD「電車の走る若穂の四季」の常時上映があり興味深く鑑賞されていました。一日も早く綿内駅周辺整備事業が進み、地域の振興・活性化につながるよう住民の皆様のご支援・ご協力をお願いします。（綿内まちづくり実行委員会 豊田繁治 記）



若穂地区住民自治協議会事務局(若穂支所内) 事務局

☎ 026-282-4621 (E-mail:wakaho.j@grn.janis.or.jp)